

クヌギのポット育苗について (第1報)

大 分 県 藤 川 清 水

1. はじめに

最近、当県においては椎茸生産の増大にともなって椎茸原木の不足が深刻な問題となっている。

椎茸原木に適する樹種としては、クヌギが最もすぐれており、ついでコナラが良いとされているが、前述のとおり椎茸原木の不足によって最近クヌギ造林が盛んになるにつれて、クヌギ苗木の不足による形質の悪化と苗木価格の高騰を招き、クヌギ造林上重要な問題となっている。

クヌギの苗木は2~3年生の大苗で根系の発達したものが最も良好であるが、クヌギは元来直根性で主根が太く、側根、ヒゲ根が比較的少なく、とくに最近ではクヌギ苗木の不足により1~2年生の側根、ヒゲ根の少ない徒長した不良苗が大部分である。

かかる現状にかんがみ、クヌギ育苗における問題点である根系の発達を促進するため、また造林時期が椎茸の発生、採集時期とかさなり、労務配分上支障を来たすので造林時期をおくらせることも検討する必要があり、ポットによる育苗を本年度より実施したので第1報として報告する。

2. ポットによる育苗

- (イ) 育苗場所 別府市大字東山字西浦野
九州林産KK苗畑
- (ロ) 標高 650m。年平均気温 11.3℃。年平均降水量 2,600mm。
- (ハ) 播種時期 5月18日
- (ニ) クヌギ種子 1,000粒
- (ホ) ポット(8cm)に使用した土壌
腐葉土75%, キノック(バーク堆肥)15%, 鶏糞10%。
- (ヘ) 管理
ポットはスノコ台(L=3m, W=1m, S=5cm)に置き、1日~3回スプリンクラーによる散水を行なっている。施肥は液肥(関西日産化学液肥のもと3号)200gを300倍液とし、8

月に1回散布した。

(ト) 経過の概要

種子を6月28日前後には発芽を終ったが、1,000粒のうち45粒は発芽しなかった。なお、直根、側根がポット壁を貫通したのは7月25日前後であった。

3. 考察

ポット苗畑で生産された普通苗の生育状況を種子の形態別に比較してみると下記のとおりである。

ポット苗と普通苗の種子の形態別生育状況

種子の形態	ポット苗			普通苗		
	調査本数	播種後3ヶ月 播種47.5.18 調査47.9.18 苗高根元径		調査本数	播種後3ヶ月 播種43.4.27 調査43.7.31 苗高根元径	
小径型 (13~16mm)	本 58	cm 16.2	mm 2.8	本 81	cm 23.8	mm 2.5
中径型 (17~19mm)	62	18.9	3.4	83	31.5	3.1
大径型 (20~23mm)	57	24.7	4.1	82	35.7	3.9
平均	(177)	19.9	3.4	(246)	30.8	3.2

上記のとおり、苗高についてはポット苗が明らかにおとっているが、根元径についてはポット苗の方が若干であるが大きくなっている。一般にポット苗は小苗が主体であるが、苗高が小さいその他の理由としては

(1) 播種時期がおそかったこと。

(2) 施肥回数が少なく、時期がおそかったこと。

等が考えられるが側根、ヒゲ根の発生については普通苗に比較して著しく多くなっており、当初期待したとおりの成果を一応達成出来たので、今後は林地に造林した後の生育状況について追跡調査をして行く予定である。